

29. だいこん

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Z ボルドー	散布	—	—	野菜類 (キャベツを除く)
	ドイツボルドー A	散布	—	—	野菜類
31	スターナ水和剤	散布	収穫 14 日前まで	5 回以内	
M5	ダコニール 1 0 0 0	散布	収穫 45 日前まで	3 回以内	
39	ハチハチ乳剤	散布	収穫 30 日前まで	1 回以内	
M1	ヨネポン水和剤	散布	収穫 7 日前まで	4 回以内	
21	ランマンフロアブル	散布	収穫 3 日前まで	3 回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	—	野菜類 (なすを除く)
M1	(銅水和剤) コサイド 3 0 0 0	散布	—	—	野菜類

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオン乳剤	散布	収穫 30 日前まで	4 回以内	
4	アドマイヤー 1 粒剤	播溝土壌混和	は種時	1 回	
1	カルホス粉剤	土壌表面散布土壌混和 処理	は種時	1 回	
13	コテツフロアブル	散布	収穫 14 日前まで	2 回以内	
5	スピノエース顆粒水和剤	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	
1	ダイアジノン粒剤 3	土壌混和	は種時	1 回	
11	トアローフロアブル C T	散布	発生初期 (但し、収穫 前日まで)	—	野菜類
3	フォース粒剤	播溝土壌混和	は種時	1 回	
4	ベストガード水溶剤	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	
3	マブリック水和剤 2 0	散布	収穫 14 日前まで	2 回以内	

・殺虫剤 (参考農薬)

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
6+15	アフームエクセラ顆粒水和剤	散布	収穫 14 日前まで	3 回以内	
14	バダン S G 水溶剤	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	
UN	ブレオフロアブル	散布	収穫 14 日前まで	2 回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける (「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「34. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
萎 黄 病 (F)	は 種 前	1. 抵抗性品種を採用する。 2. 土壌消毒する。土壌消毒の項を参照し、登録薬剤を用いる。 3. 発病地では連作をしない。	1. 抵抗性品種を用いれば、概ね土壌消毒は必要ない。
白 さ び 病 (F)	生 育 期 間	1. ダコニール1000の1,000倍液、ハチハチ乳剤、ランマンフロアブルの2,000倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. ジーファイン水和剤の1,000倍液を散布する。	1. ハチハチは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 2. ジーファインは高温下、連続散布で薬害が発生する恐れがある。
軟 腐 病 (B)	生 育 期 間	1. ヨネボン水和剤、Zボルドー500倍液、ドイツボルドーAの500～1,000倍液、スターナ水和剤1,000倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. コサイド3000の2,000倍液を散布する。	1. 早まきしたり、高温・多湿が続くと多発する。
ネグサレ センチュウ	は 種 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	は 種 時	1. シルバーストライプフィルムをマルチする。 2. アドマイヤー1粒剤を10a当り6kg播溝に施用し、土壌混和する。	1. 春は晩まき、秋は早まきで被害が大きい。 2. はくさいのウイルス病が伝染源になることがある。
	生 育 期 間	1. 別表により、いずれかの薬剤を施用する。	
キスジノミ ハムシ	は 種 時	1. フォース粒剤を10a当り4kg播溝に施用し、土壌混和する。	1. フォースは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
コ ナ ガ	生 育 期 間	1. 別表により、いずれかの薬剤を散布する。	
タ ネ バ エ	は 種 時	1. ダイアジノン粒剤3を10a当り5～8kg散布後、土壌混和する。	
ネキリムシ類 (カブラヤガ)	は 種 時	1. カルホス粉剤を10a当り6kg土壌表面に散布し、土壌混和处理する。	
カブラハバチ	生 育 期 間	[参考農薬] 1. パダンSG水溶剤1,500倍液、またはプレオフロアブル1,000倍液を散布する。	1. パダン、プレオは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。

【別表】 殺虫剤の使用方法及び効果（表中の登録内容は令和 7 年 11 月 30 日現在）

薬剤の系統	I R A C コード	薬 剤 名	希釈倍 数・施薬 量	薬剤の使用と効果						
				ア オ ム シ	コ ナ ガ	ア ブ ラ ム シ 類	カ ブ ラ ハ バ チ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	タ ネ バ エ	ネ キ リ ム シ 類 (カブラヤガ)
有機リン剤	1	カルホス粉剤	6kg/10a						○	○*
		ダイアジノン粒剤 3	5～8kg/10a						○*	
合成ピレスロイド剤	3	アディオン乳剤	3,000 倍			○*				
		フォース粒剤	4kg/10a					○*	○	
		マブリック水和剤 20	4,000 倍			○*				
ネオニコチノイド剤	4	アドマイヤー 1 粒剤	6kg/10a			○*				
		ベストガード水溶剤	1,000 倍			○*				
B T 剤	11	トアローフロアブル C T	1,000 倍	○	○*					
ネライストキシン系	14	パダン S G 水溶剤	1,500 倍	○	○	○	□ ¹⁾	○		
その他	5	スピノエース顆粒水和剤	5,000 倍	○	○*			○		
	6+15	アフームエクセラ顆粒水和剤	1,500 倍	○	□					
	13	コテツフロアブル	2,000 倍	○	○*					
	UN	プレオフロアブル	1,000 倍	○	○		□			

【効果凡例】

○*：効果ある（対象害虫に普及済み） ○：効果ある（対象害虫に未普及）

□：効果ある（参考農薬として掲載） △：効果劣る

1) 登録はカブラハバチ類

【注】

1. 合成ピレスロイド剤は蚕毒及び魚毒に、アフームエクセラ、スピノエース、パダンは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。

2. 蚕毒・魚毒及び水産動物への影響については「34. 野菜類の総括注意」も参照する。

3. コテツは、7 葉期以前に散布すると白化を生ずる場合があるので、8 葉期以降に散布する。

4. 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「IRAC コード」を参考にしながら他コードの薬剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。